

はちまるサポート 活動報告書 —令和5年度—

社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会
支えあい推進課
令和6年7月発行



はちまるサポートは八王子市の委託を受けて、重層的支援体制整備事業の一環として活動しています。

はじめに

「はちまるサポート」は八王子市が設置、八王子市社会福祉協議会が受託運営する“地域の身近な相談窓口”として業務を行っています。

令和5年度も「はちまるサポート」の整備が進められ、5月に「はちまるサポート由井」が八王子市由井事務所へ移転、10月には市内13か所目となる「はちまるサポート加住」を八王子市加住事務所内に開設しました。

本書は、令和5年度の活動実績をまとめております。個別相談では、年齢層が40代、50代の方からの相談が多く、相談内容では、家族関係・人間関係、病気や健康・障害に関する悩み、こころの問題やひきこもり・不登校、経済的な悩みなどの内容が多く、年齢や属性、相談内容を問わない「はちまるサポート」の活動実態が見てとれます。また、相談内容の一例として、相談員-コミュニティソーシャルワーカー(CSW)が相談者との関係づくりから伴走的なかかわり、サービスへのつなぎ、様々な機関・社会資源との連携・協力で、相談者ご本人(ご家族)自らが望む生活の実現にむけて動いた事例を報告しています。

多くの方々との出会いとつながり、関係構築を得て、はちまるサポートは運営できております。この協働の体制を、八王子市内で広くいきわたるような取組み(多機関協働)も推し進め、お困りごとを抱えた方々の課題解決に資する、包括的な相談支援体制構築の一助となるよう、今後とも活動を継続してまいります。

市民の方々をはじめ、福祉・医療・保健その他日常生活に関する様々な分野で活躍されている機関の皆さまのご理解・ご支援を、引き続きお願い申し上げます。

社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会
はちまるサポート CSW 一同

目次

はちまるサポートとは？	4
CSW とは？	4
はちまるサポートが取り組む 5 つの事業	5
はちまるサポート設置状況	6
はちまるサポート紹介(圏域別)	7
はちまるサポート相談事例集	13
事例1 30 年間、支援を利用していなかった知的障害のある方が支援につながるまで	
事例2 8050 問題～親亡きあともしあわせに暮らすために！～	
事例3 地域のつながりからはちまるへ～一般就労を目指して～	
はちまるサポート地域づくり活動紹介	20
①はちまるサポーター	21
②はちまるファーム	22
③地域共生のまちづくり推進セミナー	23
④はちまる大和田「まちあるき」	24
⑤「ひきこもりなど生きづらさを抱えた方」についての勉強会	25
活動実績 個別、地域からの相談件数実績	26

はちまるサポートとは？

はちまるサポートは、地域の身近な「福祉総合相談窓口」です。年齢や性別、障がいの有無は問いません。本人や家族に寄り添いながら、各種関係機関と協力して困りごとの解決を目指す「包括的な相談窓口」として活動しています。困りごとだけでなく、地域の為に活動したいというご相談も受け付けています。

現在、はちまるサポートには相談員であるCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が1~3名体制で常駐しています。

CSWとは？

CSWは、複雑かつ多様化する個別的な相談に対して、寄り添いながら適切な支援を行う地域福祉の専門職です。どこに相談すればよいかわからない“困りごと”などの相談を受け付け、地域の様々な力をつなげることで解決に向けて支援するとともに、より暮らしやすい地域づくりのための取組を行います。

相談受付

属性に関わらず、どのような相談も受け付けます。



サポート

ご本人の状況に応じて支援を行います。

- 適切な機関へのつなぎ
- 社会とのつながりづくり
- 地域との関わりづくり



●はちまるサポート CSWの活動はHP、Instagram、Facebookで情報発信しています。



HP



Instagram



Facebook

はちまるサポートが取り組む 5 つの事業

はちまるサポートは、八王子市より重層的支援体制整備事業の委託を受け運営しています。重層的支援体制整備事業は、地域共生社会の実現を目指すための体制整備として、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する新たな事業として、令和3年4月に国が創出しました。

はちまるサポートでは、重層的支援体制整備事業で位置づけられた下記の 5 つの事業に取り組み、地域共生社会の実現を目指し活動しています。

1

包括的相談支援事業

- 誰からでも、どんな相談でもまるごと相談を受け止める
- 支援機関と協力しネットワークで対応する

2

参加支援事業

- 社会とのつながりを作るための支援を行う
- 利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる

3

地域づくり事業

- 世代や属性を超えて交流できる場や居場所をつくる
- 交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネート

4

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

- 支援が届いていない人に支援を届ける
- 本人との信頼関係の構築に向けてこちらから出向いて働きかけを行う

5

多機関協働事業

- 重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす
- 支援関係機関の役割分担を図る

地域共生社会とは

地域共生社会とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をもに創っていく社会を目指すものです。

出典：厚生労働省



はちまるサポート設置状況

平成 26 年度	市内で初めて地域福祉推進拠点開設 北部圏域に地域福祉推進拠点石川開設
平成 29 年度	配置するCSWを専従化 西部圏域に地域福祉推進拠点川口、 西南部圏域に地域福祉推進拠点浅川、 中央圏域に地域福祉推進拠点大和田開設
平成 30 年度	市内全6圏域に地域福祉推進拠点が設置 CSWが全圏域で対応可能になる 東南部圏域に地域福祉推進拠点由井、 東部圏域に地域福祉推進拠点由木開設
平成31年度 令和元年度	東部圏域に地域福祉推進拠点由木東開設 中央圏域に地域福祉推進拠点台町開設
令和 2 年度	西部圏域に地域福祉推進拠点恩方開設
令和 3 年度	重層的支援体制整備事業を受託 「地域福祉推進拠点」から「はちまるサポート」に名称変更 西南部圏域にはちまるサポート長房開設
令和 4 年度	西部圏域にはちまるサポート元八王子、 西南部圏域にはちまるサポート館開設
令和 5 年度	北部圏域に13か所目となるはちまるサポート加住開設

はちまるサポート紹介(圏域別)

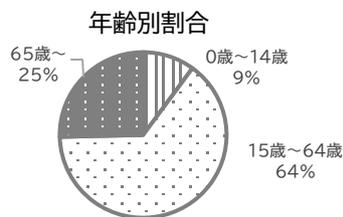
令和5年度末時点、市内13か所にはちまるサポートが開設し、25名の専従のCSW

(コミュニティソーシャルワーカー)が活動しています。



中央 圏域

・面積	12,838 km ²
・圏域人口	128,430 人
・0～14 歳	12,708 人
・15～64 歳	82,970 人
・65 歳以上	32,752 人
・高齢化率	25.5 %



はちまるサポート **大和田** 大和田市民センター1階

【担当エリア】

横山町、八日町、本町、元横山町、田町、新町、明神町、東町、旭町、三崎町、中町、南町、中野町、暁町、中野山王、中野上町、清川町、大和田町、富士見町、大谷町の一部

【地域の特徴】

中高層マンション、戸建住宅、団地が混在している。

京王八王子駅や JR 八王子駅に近く利便性が高いため人口が多い。

【CSW より】

子どもたちからシニア世代まで様々な方にお立ち寄りいただいています♪地域に愛されるはちまるサポートを目指し、これからもみなさんと一緒に地域のこれからのことを考えていきたいと思えます。



はちまるサポート **台町** 台町市民センター 1階

【担当エリア】

追分町、千人町、日吉町、元本郷町、長房町(水崎町会)、八幡町、八木町、平岡町、本郷町、大横町、小門町、台町、子安町、寺町、万町、上野町、天神町、南新町、緑町、旭町 1-18、小比企町 846

【地域の特徴】

中高層マンション、商店、戸建住宅が混在している。JR 八王子駅や JR 西八王子駅に近く利便性が高いため人口が多い。富士森体育館、富士森公園など、活動や交流の場となる施設がある。

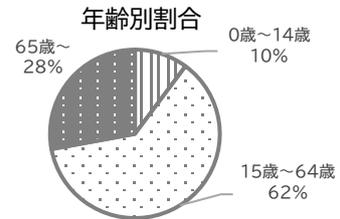
【CSW より】

台町市民センターの中にあるので、利用者の方が気軽に立ち寄れます。ひきこもりに関する相談が増えていますが、地域活動も活発なので、地域の方と繋がりながら相談者の方をサポートしていきたいです。



北部 圏域

・面積	22,609 km ²
・圏域人口	45,861人
・0～14歳	4,532人
・15～64歳	28,424人
・65歳以上	12,905人
・高齢化率	28.1%



はちまるサポート石川 石川事務所2階

【担当エリア】

石川町、宇津木町、大谷町(一部を除く)、久保山町、小宮町、平町、高倉町、丸山町

【地域の特徴】

東北部に位置し日野市、昭島市に隣接している。JR 北八王子駅、小宮駅があり、古くからの戸建住宅と新興住宅地、団地などが混在している。

【CSW より】

同じ建物内に、高齢者あんしん相談センター石川、子ども家庭支援センター石川もはいており、各関係機関や地域と連携しながら、様々なお困りごとに寄り添います。

お気軽にご相談ください。



はちまるサポート加住 加住事務所内

【担当エリア】

梅坪町、尾崎町、加住町、左入町、高月町、滝山町、丹木町、戸吹町、中野山王二丁目(8)、みついで、宮下町、谷野町

【地域の特徴】

北部に位置し、地区中央を東西に谷地川が流れている。中央高速道八王子インター付近の開発が進むなか、滝山城跡など自然豊かな地域である。

【CSW より】

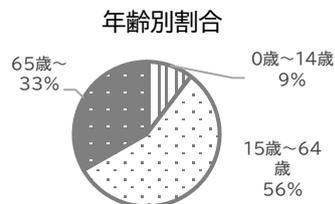
地域の身近な相談窓口として、皆様と一緒に何歳になっても安心して住みやすい地域をつくりたいと思っています。何かお困りのことがございましたら、遠慮なくご相談ください！

お待ちしております。



西部 圏域

・面積	73,343 km ²
・圏域人口	94,454人
・0～14歳	9,047人
・15～64歳	53,477人
・65歳以上	31,412人
・高齢化率	33.2%



はちまるサポート**恩方** 恩方事務所 1階

【担当エリア】 下恩方町、上恩方町、西寺方町、小津町

【地域の特徴】 自然豊かで、住民同士の助け合いの意識やつながりが強く、自主活動がさかんな地域である。

【CSW より】 恩方は地域のつながりが深い地域です。はちまる恩方も地域の方のご協力をいただき、認知度が高まり、相談件数も大幅に伸びています。『顔を見に来たよ』とはちまるに寄って頂けることも増えています。地域の方が気軽に立ち寄れる、そんな場所でありたいと思っています。



はちまるサポート**川口** 川口事務所内

【担当エリア】 犬目町、上川町、川口町、檜原町、美山町

【地域の特徴】 「おらがふるさと子どもは宝」を基調としたまちづくりを実施。歴史あるまちの伝統を重んじながら、近年では若い世代が続々と移り住んできている。世代を超えた交流や住民活動が盛んで、地域一丸となった取り組みも多い。豊かな自然に囲まれ、住民同士のつながりが強く、郷土愛に満ちた地域。

【CSW より】 はちまるサポート川口は、『「地域」と「人」とのつながり』を大切に、地域住民の皆様と連携しています。地域の皆さんが気楽に立ち寄れる「コミュニケーションの場」としてだけでなく、気軽に「相談できる場」としても活用していただけると幸いです。



はちまるサポート**元八王子** 元八王子事務所 1階

【担当エリア】 元八王子町、上壱分方町、諏訪町、四谷町、泉町、叶谷町、大楽寺町、式分方町、川町、横川町、長房町(一部地域)

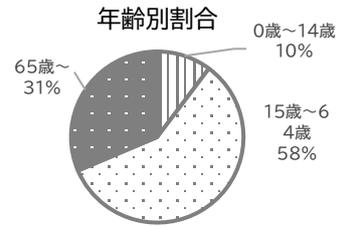
【地域の特徴】 丘陵地には大規模な住宅地が造成され、街道沿いには商店が多く見られる。国の史跡に指定されている八王子城跡を中心として、歴史的背景と寺社等の文化的な遺産をもつ地域である。

【CSW より】 事務所内に所在するため、幅広い年齢層の方にご来所頂いています。歴史ある地域の中で、古くからお住まいの方も新しく来られた方も住んで良かったと思えるような町づくりのお力になればと思っています。



西南部 圏域

・面積	<u>40,655 km²</u>
・圏域人口	<u>97,637人</u>
・0～14歳	<u>9,852人</u>
・15～64歳	<u>57,032人</u>
・65歳以上	<u>30,753人</u>
・高齢化率	<u>31.4%</u>



はちまるサポート **浅川** 浅川市民センター1階

【担当エリア】 裏高尾町、高尾町、廿里町、西浅川町、狭間町、初沢町、東浅川町、南浅川町、散田町

【地域の特徴】 浅川の最寄り駅である高尾駅は多くの登山客で賑わう。一方、圏域内の山間部は豪雨・土砂災害の影響を受けやすい地域も多数ある。

【CSW より】

日々、山の中から街の中まで走り回っております。支援機関や地域の方々とのつながりを大切にし、相談者に寄り添った対応を目指しています。お困りごとや地域のことなど、まずはお話を聞かせてください。



はちまるサポート **館** 館事務所 1階

【担当エリア】 寺田町、梶田町、館町、大船町、めじろ台、山田町

【地域の特徴】 圏域内に高齢化率の高い館ヶ丘団地や UR グリーンヒル寺田団地等がある。一方近隣の大学生が地域に顔を出すなど交流が盛んな一面もある。

【CSW より】

はちまるサポート館は昨年開設して1年が経ちました。今後も関係機関と連携しながら地域の皆さまのお力になればと考えています。お気軽にご相談ください。



はちまるサポート **長房** 長房ふれあい館内

【担当エリア】 城山手、長房町(水崎町会、194-2～197-22、202-4を除く)、並木町

【地域の特徴】 団地が大部分を占めているが、古くからの戸建住宅もある。団地内に大型商業施設があり、近隣からの買い物客も多い。

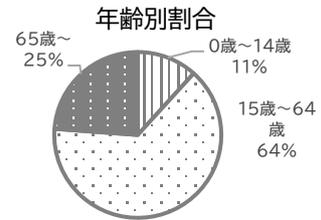
【CSW より】

長房ふれあい館の中に窓口があり、たくさんの方が気軽に立ち寄って下さいます。コピー長房が出来てからさらに長房地域が活気づいてきています。それに私たちも負けないように色々な方に寄り添えるように頑張りたいと思います。



東南部 東部 圏域

・面積	35,854 km ²
・圏域人口	193,144 人
・0～14 歳	22,086 人
・15～64 歳	123,036 人
・65 歳以上	48,022 人
・高齢化率	24.8 %



はちまるサポート **由井** 由井事務所内

【担当エリア】 打越町、宇津貫町、片倉町、北野台、北野町、絹ヶ丘、小比企町、長沼町、七国、兵衛、西片倉町、みなみ野

【地域の特徴】 マンションと戸建住宅が混在しつつ、公園や農地、牧場があり自然も見られる地域。比較的利便性がよく、高校や大学もある。

【CSW より】

北野街道と湯殿川にはさまれた由井事務所内の窓口です。自然豊かで季節の木々や花々を楽しめる地域でみなさんが立ち寄りやすい雰囲気づくりを心掛けています。困りごと、地域づくり、うれしいこと気軽にお話しに来てください。



はちまるサポート **由木** 由木事務所内

【担当エリア】 上柚木、越野、下柚木、中山、南陽台、別所、堀之内、松木、南大沢、鎌水

【地域の特徴】 集合住宅と戸建てのエリアが分かれて存在している地域。商業施設も豊富で、昨今魅力あるまちづくりのための住民活動も見られる。

【CSW より】

本人やご家族に寄り添う支援を目指して日々の活動を行っています。相談の傾向として8050問題や生活困窮が多いです。地域の方との繋がりを大切に、地域を盛り上げていきたいと考えています。



はちまるサポート **由木東** 由木東事務所内

【担当エリア】 松が谷・鹿島・大塚・東中野

【地域の特徴】 多摩ニュータウン開発で整備された集合住宅と戸建てのエリアが存在する地域。生活圏はほぼ多摩市。大学や公園が多い。住民による地域活動も活発に行われている。

【CSW より】

はちまるサポート由木東は、高齢者あんしん相談センター由木東と横並びで日々連携しながら相談対応をしています。今後も様々な関係機関と連携し、お困りごとのサポートをしていきます。



はちまるサポート相談事例集

事例 1 『30年間、支援を利用していなかった知的障害のある方が支援につながるまで』
(包括的相談支援)

事例 2 『8050問題～親亡きあともしあわせに暮らすために！～』
(アウトリーチ支援 参加支援)

事例 3 『地域のつながりからはちまるへ～一般就労をめざして～』
(アウトリーチ支援 参加支援)

事例1

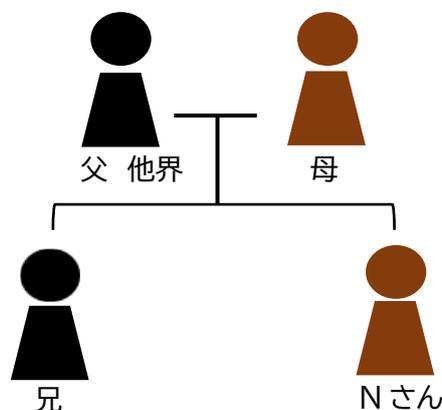
30年間、支援を利用していなかった知的障害のある方が支援につながるまで

●初期対応時の世帯の状況

Nさん:義務教育終了後、就労するも短期間で退職。
その後、就労等はせず、家事手伝いをしていた。
子どもの頃に療育手帳を取得したことは忘れていた。

兄:現在まで転職しながら就労を継続している。
家事や母の介護はNさんに任せている。

母:要介護状態。週2日デイサービスを利用するも、ヘルパー等の支援は拒む。要介護の状態は進行している。



●関わりのきっかけ

高齢者あんしん相談センターの職員が、母の様子を見るために訪問した際、Nさんと出会う。何かしらの支援が必要な方だと感じ、はちまるサポートに相談が入る。

その後、高齢者あんしん相談センター職員と、はちまるサポートのCSWが自宅を訪問。その際、Nさん・兄・母と話をする。兄は「本人に働いてほしい」、Nさんは「働きたい」と話される。



●はちまるサポートCSWが同行し以下の支援を継続的に行う

1.公的なもの

- ① 福祉事業所……………「働きたい」という思いの実現。まずは福祉的就労から開始
- ② 障害者福祉課……………福祉的就労を開始するための「受給者証」の申請手続き
- ③ 住民課……………税金の申告
- ④ 年金課……………「障害年金」申請手続き
- ⑤ 東京都心身障害者福祉センター…「障害者手帳」取得のための検査や面談
- ⑥ 相談支援事業所……………「福祉事業所」を利用するための「サービス等利用計画」を依頼
- ⑦ 病院……………「障害年金」申請のための受診や数十年ぶりの健康診断受診
- ⑧ 市立図書館……………「以前から行ってみたかった」という希望があり、初めて利用
- ⑨ 在籍した中学校……………「障害年金」申請資料作成の協力

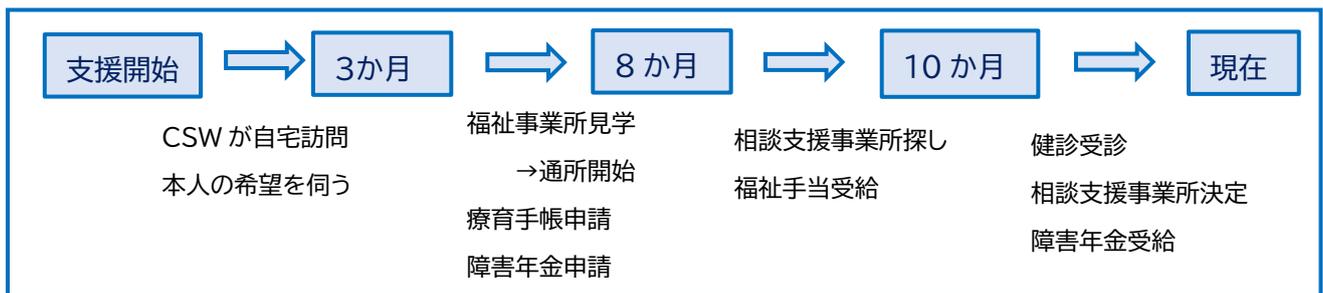
2.民間の活動など

- ① 困りごと相談会の食料無料配布…食料や生活用品を支援してもらう

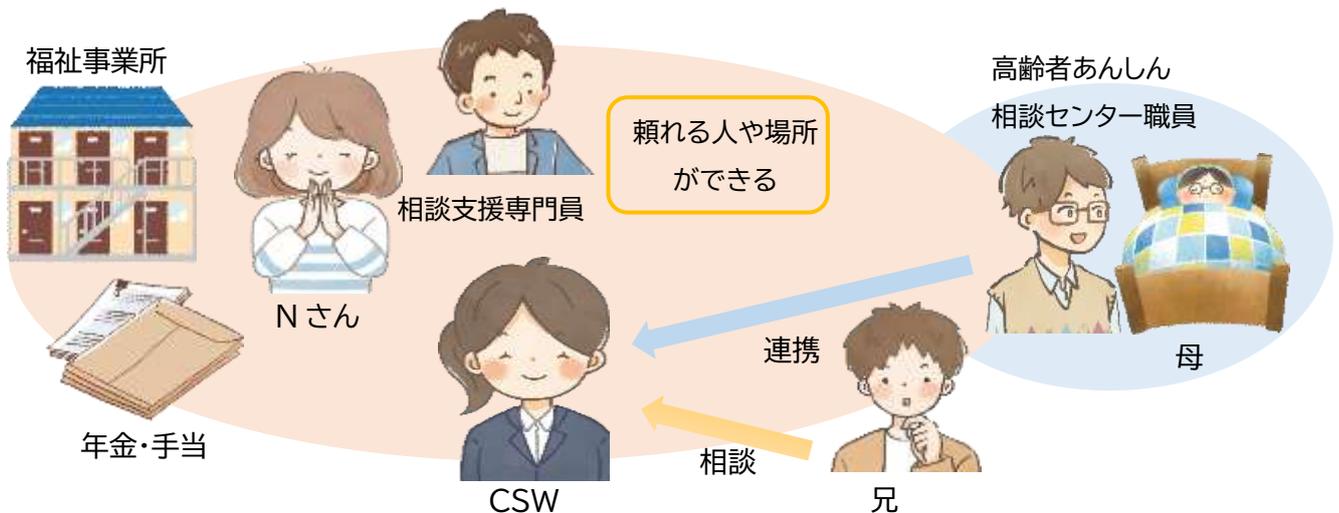
●CSW が関わる前の状況



●支援経過



●CSW が関わった後の状況



●CSW の振り返り

30年間どこにも相談することなく、家族で支えあい、自分の役割を粛々とされていたので、Nさんのペースを尊重し同行支援をしながら、制度やサービスにつなげた。

Nさんの話をじっくりと聴く支え手が増えることで、当初はあまり話さなかった自分の気持ちや希望を話されるようになった。また、障害年金・福祉手当・福祉事業所の工賃を得ることで、好きな店まで出かけて行き買い物をするなど、余暇の幅も広がっている。

●今後の展望と課題

高齢の母は介護の必要性が増しており、自宅介護をしながら家族3人で暮らすことに、限界が来ることが予想される。家族の構成が変わった場合、Nさんと兄がどのような生活スタイルを望むかをうかがいながら、関係者が連携して支援していくことになるのではないかな。

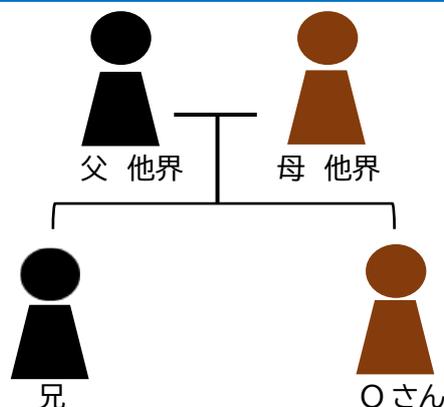
現在、母の介護と一家の家事がNさんの役割となっており、夜遅くまで家事をするため常に睡眠不足の状況である。Nさんの負担を減らすために、家族にどのように働きかけていくかは大きな課題である。

事例 2

8050 問題～親亡きあともしあわせに暮らすために！～

●初期対応時の世帯の状況

○さん:60代、母親(90代)と2人暮らしであったが、病気により母親が急逝。長らく2人で暮らしてきた自宅に、一人残された状態。○さんは母親以外の人や地域との繋がりは一切なく、就労もしていないため孤立状態となった。



●関わりのきっかけ

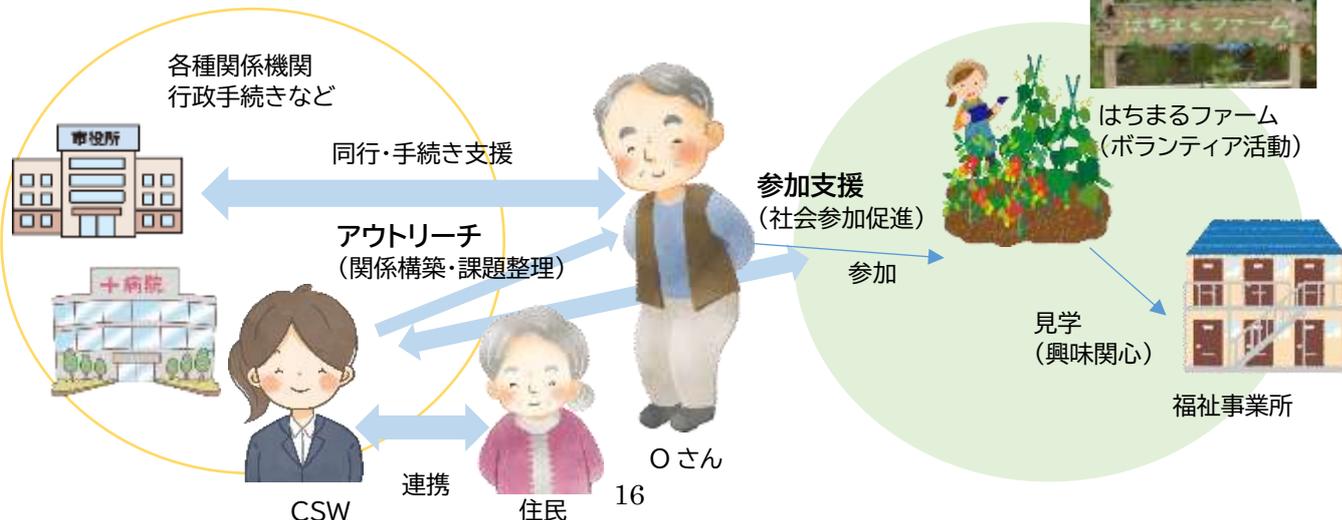
○さんが幼少期の頃より当該世帯のことを知っている近隣住民より、「心配な人がいる。すぐに訪問してあげてほしい」との連絡がはちまるに入る。以前より、○さんのことを心配していたようで、突然母が亡くなり「一人での生活は困難なのでは?」と、相談した様子。

●アウトリーチによる本人との関係づくり

○さんは、自らの状況を「大丈夫」としか表現できず、“自身が置かれている状況”、“何をしなければいけないか”、を整理し、困り感を自ら伝えることが困難であった。CSWからの声掛けによる関係づくり、能動的な介入による課題の整理、課題解決のためのサポートを行った。具体的には定期的な訪問連絡、関係機関との繋ぎや、手続き同行支援などを実施し、相談者である近隣住民には心配な様子が見られたら連絡をもらった。

●地域とのつながりを作る参加支援

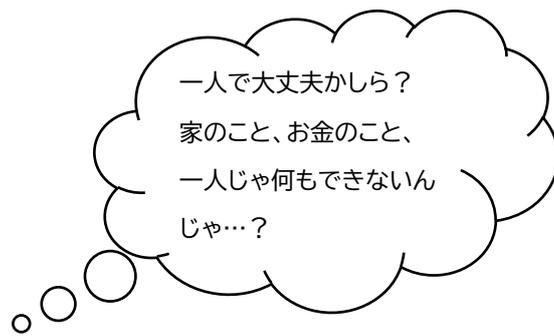
CSWと複数回顔を合わせると、「○○したい」「○○は必要ない」「これは自分でできる」など、自分の意思を伝えることが増えた。母親のことや手続きがある程度落ち着いたころ、社協で実施している<はちまるファーム>に誘うと、参加するようになる。畑作業、芋煮会、看板づくりなど、様々な活動に参加し、畑作業を行っている福祉事業所の見学にも繋がった。



●CSWが関わる前の状況

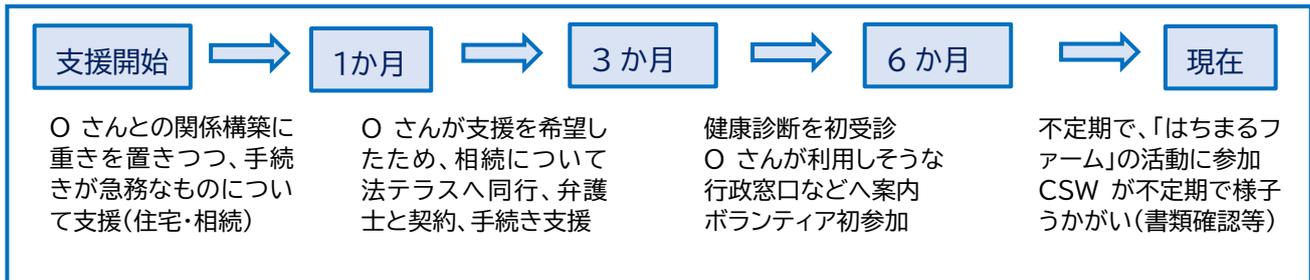


近隣住民

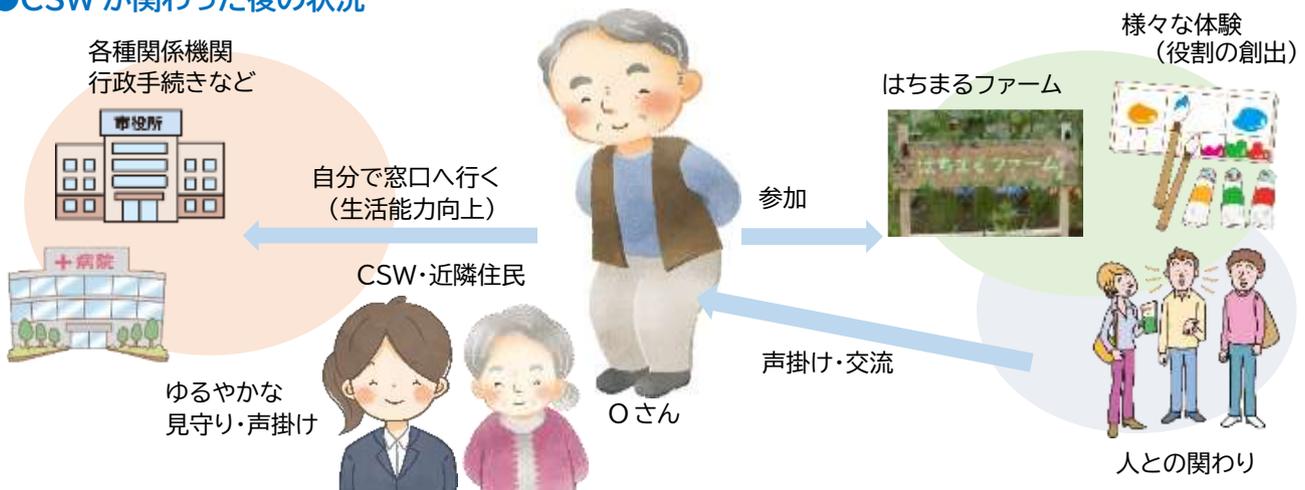


〇さん

●支援経過



●CSW が関わった後の状況



●CSWの振り返り

初めて会った日には、「一人では生活できないかも。」と思ったのが正直なところだった。しかし、何度か会っていくうち 〇さんにできること、これからできるようになる力があることがわかった。〇さんが「自分宛てに誰かから連絡が来るかも」と思い、自分で電話を購入した時のことは印象深く残っている。必ずしも制度やサービスに繋ぐことだけが正解ではない、と気付かせてくれたケースである一方、全く支援者がいなければ困り果てていたケースであり、真っ先につないでくれ、今も見守ってくださっている地域の方に感謝している。

●今後の展望と課題

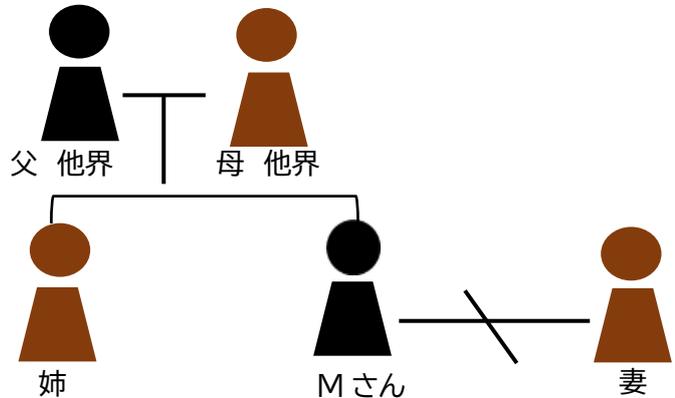
相続手続きがすべて完了したら経済状況と一緒に確認し、今後の生活について見通しを立てる予定。
また、地域活動として「はちまるファーム」に参加しながら人と関わる経験を少しずつ積み重ねているので〇さんの意向を汲みながら今後の社会や地域とのつながりを一緒に考えていきたい。
〇さんが望む地域で、いつまでも安心して暮らせるような地域の在り方についても、〇さん、そして地域の方と一緒に考えていきたい。

事例 3

地域のつながりからはちまるへ～一般就労をめざして～

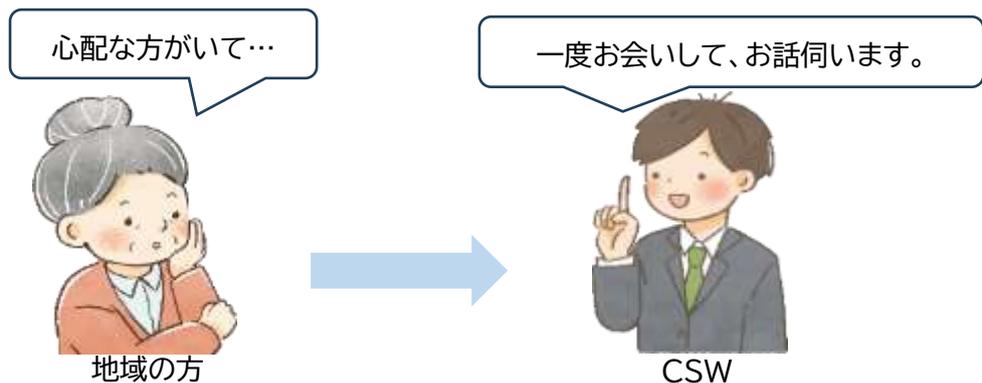
●初期対応時の世帯の状況

Mさん: 求職活動しながら、貯金を切り崩す生活。基本的に自宅に閉じこもっていた。



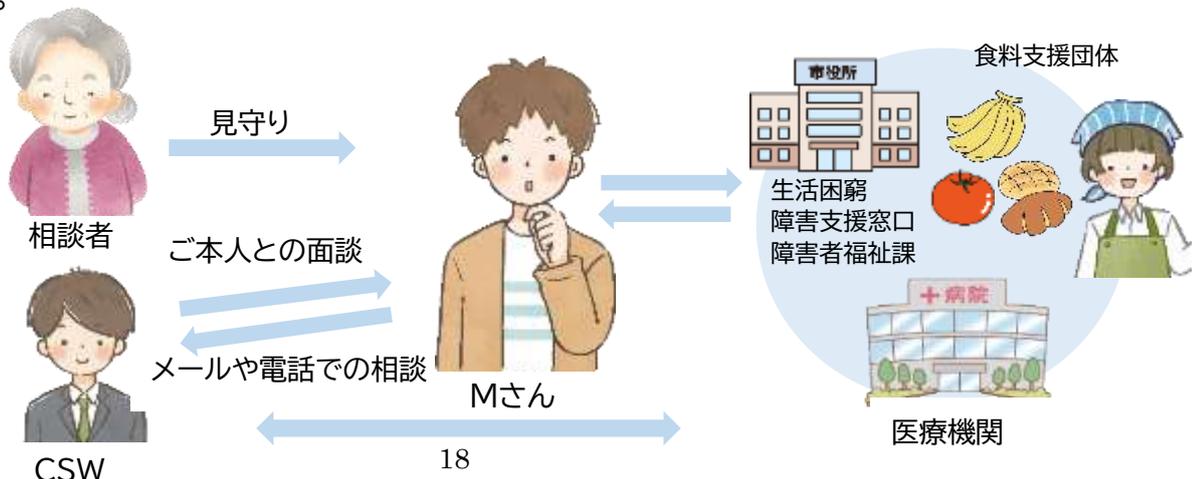
●関わりのきっかけ

相談者より、コロナ禍で離職し、その後求職活動が上手くいかず、自宅に閉じこもっている方がいるので一度話を聞いてあげてほしい旨、はちまるサポートに相談が入る。



●Mさんとの関係づくりを根気強く行う

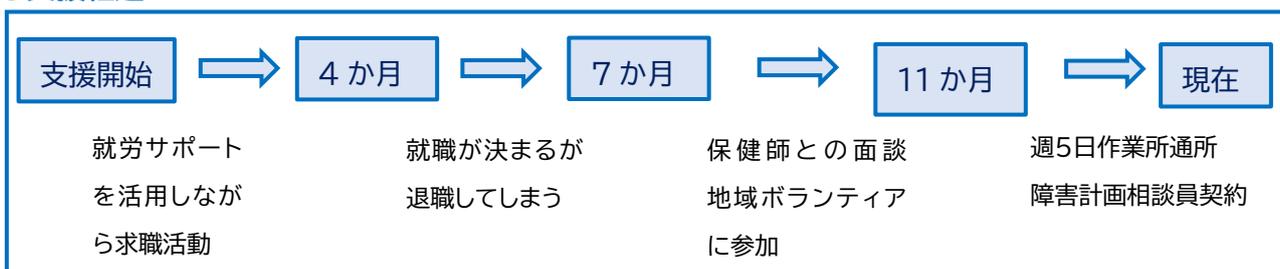
本人は、一度話を始めると様々な話題へ展開していく為、課題が中々見つからなかった。傾聴しつつ慎重に課題を見つけていき、一つずつ課題を整理した。他者に迷惑をかけたくないという気持ちが強い方の為、自宅へ直接訪問する等信頼関係の構築に努めた。日程調整等する際に電話が中々繋がらないこともあった為メールを活用し、こまめに連絡を取る様にした。必要な社会資源へも同行し同じ目線で課題解決に取り組むことにより CSW を信頼してくれるようになった。



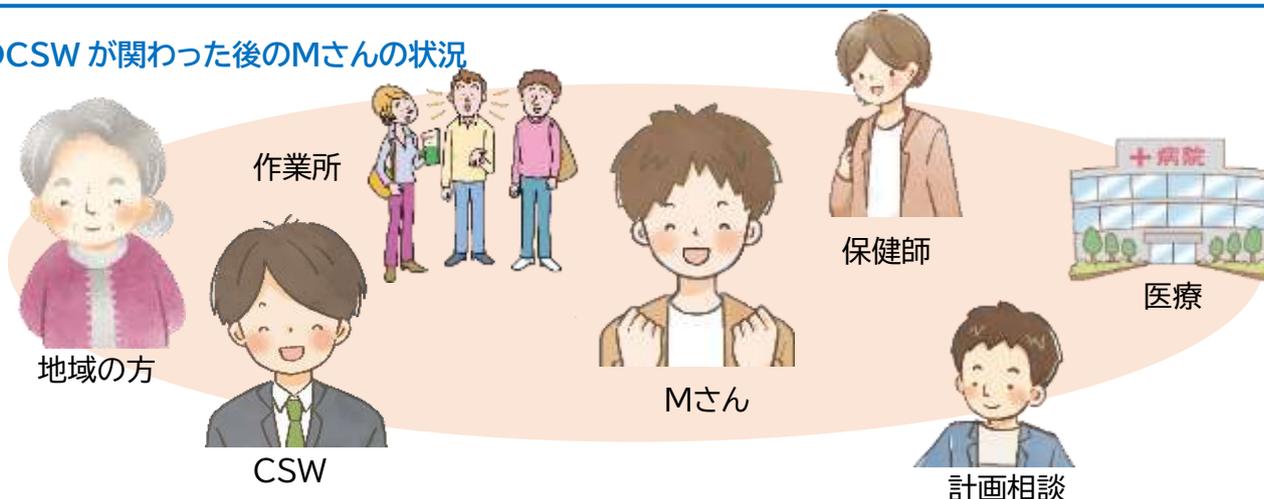
●CSW が関わる前のMさんの状況



●支援経過



●CSW が関わった後のMさんの状況



●CSW の振り返り

Mさんに対して、CSWが繰り返し自宅へ足を運び、電話やメール等も積極的に活用しコミュニケーションを図ることで、関係構築に努めた。就労の失敗もあったが、その際も本人の辛い気持ちを傾聴し、Mさんが信頼している相談者のボランティア活動への参加や、そこで知り合った地域の方達との交流もあり、当事者自身が他者との関係を通じて世間から孤立していないということが実感でき、再び立ち上がるきっかけになった。CSWとして要支援者と共に色々な課題へ立ち向かっていったことで、要支援者の抱えている生きづらさや、不安を共有し信頼関係が深まりCSW、要支援者共に成長することが出来た。

●今後の展望と課題

一般就労がMさんの希望であるが、周りからどう思われているのか、気になってしまうことが多く、そのことがMさんの悩みへ繋がり、他者への不信感を抱くこととなり、その結果として離職してしまった。

Mさんが作業所への通所を続けることで自分自身の長所を自覚し、また他者とのコミュニケーションに自信を持てる様になってもらいたい。Mさんの気持ちを理解し適切に対応してくれる職場へつながる様に今後も関係機関や地域の方と協力して支えていきたい。

はちまるサポート地域づくり活動紹介

①はちまるサポーター

②はちまるファーム

③地域共生のまちづくり推進セミナー

④はちまる大和田「まちあるき」

⑤「ひきこもりなど生きづらさを抱えた方」
についての勉強会

はちまるサポーター

はちまるサポーターは、日常生活の中で、地域の問題や課題、ちょっと気になることなどを相談窓口の『はちまるサポート』につないでいただく“つなぎ手”となるボランティアです。はちまるサポートで、ご相談をお受けしている中で、複合的な課題を持っているご家庭が多く見受けられます。お困りごとを早い段階でキャッチしていきたいと思い、令和5年度より「はちまるサポーター」という形をつくりました。地域のみなさんのお力を借りながら、安心して過ごせる地域づくりを一緒にしていきたいと思っています。

「つなぎ手」ってどんな人？

「つなぎ手」とは、日常生活の中で自然と福祉に“つながる”行動をしている人です。

地域の異変や困っている人に気づいたときに情報提供する、家族や友人、近所の人と交流する、SNS 等で取得した健康情報や福祉サービスの情報を共有するなど、当たり前だと思っている何気ない行動が、結果的に自分や周りの人との「福祉」に繋がっていることがあります。

出典：第4期八王子市地域福祉計画



登録説明会・研修会を3か所で開催しました！

はちまる長房 登録者4名
 10月27日 はちまるサポーター説明会(参加者7名)
 1月30日 研修会(参加者6名)

はちまる川口 登録者10名
 11月14日 はちまるサポーター説明会(参加者12名)
 12月21日 研修会(10名参加)

はちまる大和田 登録者8名
 11月29日 はちまるサポーター説明会(参加者21名)
 12月12日 研修会(参加者14名)

令和5年度は、はちまる長房、川口、大和田の3か所で開催し、22名の方にご登録いただきました。

令和6年度以降、全てのはちまるサポートにて「はちまるサポーター説明会及び研修会」を実施予定です。



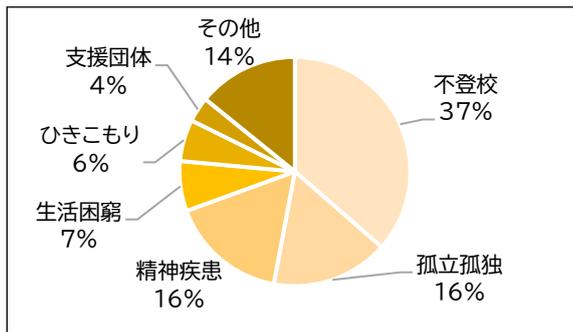
はちまるファーム

CSWが日々ご相談をお受けする方の多くは、ご家族との関係性や、職場、学校などでの人間関係に悩み、孤立孤独状態に陥っています。はちまるファームは、そのような悩みを抱えた方々が、少しでもほっとできたり、「外に出てみようかな」と思えるような場所を作りたいという思いから、令和4年度より地域の方と準備を進めてきました。令和5年度には多くの方にご参加いただき、様々な交流が生まれる場所となりました。

●参加実績と取組み

▶参加延べ人数・・・86名

▶参加者内訳



(取組み)

▶日々の作業(土づくり、畝づくり、草取り、種まき、収穫)・・・毎週木曜日 午前中
季節や時期に応じて、畑の持ち主さんが「今日の作業」を教えてください。

令和5年度は継続して参加される方が増え、社会参加の第一歩目として、就労までの準備期間として、居場所として、それぞれの参加の仕方での畑作業にご協力いただきました。

市内の支援団体、福祉事業所の方など、地域とのつながりも増え、支援者同士や家族同士が交流できる場としても広がりが見られました。

交流や畑作業以外にも大切に・・・

*里芋ほり・芋煮会 (11月30日)

13名の方が参加し、里芋ほりを行いながら、気持ちのよい晴れ空の下で芋煮会を行いました。世代も背景も超えて、みんなで作って食べて、日ごろの活動を労いました。

*ファームプレート作り(2月15日・22日)

8名の方が参加し、畑で使用する作物のプレートを作成しました。木工作业に挑戦する方、イラスト描きが得意な方、それぞれの“好き”を活かして素敵なプレートができました。

“一緒に食べること”や“一緒に作業すること”を通じてコミュニケーションが生まれる場面がありました。また、「手伝ってくれてありがとう！」という地域の方の言葉に、みなさんが力をもらっていることを、私たちCSWも活動を通じて実感しています。



広がる！繋がる！地域の力

はちまるファームを運営している地域のお蕎麦屋さんより、「出汁をとったあとの鰹節を肥料に使えないか？」とありがたいご提案をいただき、活用させていただいています。

また、はちまるファームの活動にはひきこもりや不登校を支援する団体の方々も参加してくださっています。様々な立場の方がこの場を通じて交流したり、役割が生まれていく、そんなあたたかい場所を今後も続けていきたいと思ひます。

地域共生のまちづくり推進セミナー

昨今の代表的な社会問題として「8050問題」、「不登校」、「ひきこもり」、「孤独死」や「生活困窮」があります。それらの問題は、はちまるサポートの窓口へも多くの相談が寄せられています。きっかけや経緯は様々ですが、本人や家族が問題を抱え込み、周囲から孤立してしまうことで問題は長期化・深刻化しています。そこで、「多様性を認め自分らしくいられる場所」をテーマに、どうすれば誰もが孤立せず、安心して地域の中で支え合いながら暮らすことができるのかを、実際の活動を通じて考える機会とするために「地域共生のまちづくり推進セミナー」を開催しました。

●開催日時

令和5年11月11日(土) 13:30~16:00

●開催方法

- ・ZOOMによるオンライン配信
 - ・市内5カ所のサテライト会場にて同時配信
- ①中野市民センター ②クリエイトホール ③南大沢市民センター
④横山南市民センター ⑤元八王子市民センター



【プログラム・登壇者】※当日プログラムが変更になったため、チラシの内容と異なります。

第1部 地域活動団体の実践報告『リトリート・裏高尾の活動について』

医療法人社団清伸会 高尾厚生診療所院長 板橋 充氏

第2部 基調講演『多様な若者が生き生き過ごせる地域社会づくり』

NPO法人「ゆどうふ」理事長 辻岡 秀夫氏

第3部 『はちまるファームについて』

はちまるサポート CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

第4部 パネルディスカッション



サテライト会場の様子



配信会場の様子

セミナーを終えて…

セミナーには、105名(会場参加:45名、ZOOM参加:60名)と多くの方が参加して下さいました。パネルディスカッションでは、居場所活動の効果や課題、今後の必要性について意見を交わしました。参加者からも8050問題やひきこもり支援に関する質問が寄せられ深みのある話し合いとなりました。

はちまる大和田「まちあるき」

はちまるサポート大和田に来所される地域の方、民生委員、町会の方より、「ここは川が近いから災害のことを考えると心配なの」「台風19号の時には怖い思いをした」という声がありました。令和4年度に、「おおわだまち みんなの防災」と題して、災害時の取り組みに関する学習をする機会を作り、そこでの住民の方の声から今回の「大和田まちあるき」の開催に至りました。

●開催までの経緯

令和5年1月に、地域住民を対象とした防災講座を実施し、講座の最後には参加者同士で意見交換するための座談会を行いました。

(座談会での声……)

- ・この地域に長く暮らしているけど、どこに何があるか、災害時役立つものや場所を知らない
- ・日ごろから地域の人と繋がっていることが大切なのは



このような声が多く寄せられました。「ならば、地域住民の方と一緒に街を歩いて、このまちのこと、まちにある資源のことを改めて知る機会を作ろう」と思い、まちあるきを開催することとなりました。

●開催日時

令和6年1月17日(水) 13:30~16:00

●参加人数と当日の様子

▶参加人数…29名

▶当日の流れ

①オリエンテーション:2つのスタート地点に集合し、講師よりまちあるきのポイントを共有

②まちあるき:3つのルートに分かれて、ポイント地点や防災に関する資源を巡りゴールを目指します。

(★3つのルート:川沿いルート・商店市街地ルート・土砂災害警戒区域ルート)



参加者の方はそれぞれ自分のルートのマップを手に歩き、気になったことを書いていきます



道中、商店や教会などに立ち寄らせていただき、八王子との災害協定の話、災害時の役割等についてお話をいただきました

みなさんにご協力いただきました！

スーパーアルプス大和田店様、ノムラ薬局大和田五丁目店様、ルーテル八王子教会様、ファミリーマート大和田五丁目店様、大林道路多摩営業所様…

ありがとうございました！



③ふりかえり:見たもの感じたことをマップ上で共有し、感想も共有しました

「ここが危なかった」「道が狭かった」など、不安に思うことだけでなく、「ここは住民がよく散歩する道」「このお店の店員さんは感じがいいよね！」などポジティブな意見もたくさん出ました。地域にあるお宝(お店や店員さん、防災資源など)を発見できたこと、地域の方同士が顔なじみになれたことが、なによりの収穫でした。



●今後について…

参加者の方々から得られた情報を形にして、地域みなさんに還元したいと思っています。

「ひきこもりなど生きづらさを抱えた方」についての勉強会

地域住民を対象に、ひきこもりの現状を知っていただき、理解を促すために【「ひきこもりなど生きづらさを抱えた方」についての勉強会】を開催しました。

●開催までの経緯

東部地域の住民の方から「ひきこもり状態にある方のための居場所が欲しい」という相談を受け、ひきこもり状態の方の現状やどのようなニーズがあるのかを把握するために東部地域の民生・児童委員を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケートには「実態やニーズ把握が困難であり、把握できてもどのように接していいのかわからない」等の意見が目立ちました。そこで、ひきこもり状態とはどういうことか、当事者・家族がどのような思いを抱えているのか、生きづらさとはどのようなことか理解を深めるための勉強会を企画し、当事者家族だけでは解決できない問題を地域の事として考える第一歩となるよう期待して開催しました。

●参加人数と当日の様子

▶参加人数 61名（①2/17 南大沢市民センター 30名 ②2/18 由木東市民センター 31名）

▶当日の流れ

第1部 講演「当事者理解を深めるために」

講師：明治学院大学社会学部社会福祉学科 関水徹平 准教授

第2部 はちまるサポート職員による寸劇「本人や家族が抱える葛藤」

第3部 ひきこもり経験者による体験談

第4部 はちまるサポート・地域のひきこもり支援活動の紹介



●参加者の声

「ひきこもる理由は多様な為、一つの事例では語れないが、社会状況の側面から知ることができ、有益だと感じた」「研究者、経験者、寸劇と様々な視点からお話を聞くことができ、大変有意義だった」「当事者の理解も少し進んだ。寸劇は短くて心の声があった。体験談のお話もよかった。社会の仕組み、世界の支援など理解できた。働く場、働き方も多様であることを理解できてよかった」

●CSWの所感と今後について

当事者家族の意見を伺いながら内容を検討したことで方向性が明確になり、多角的な視点で内容を充実させることができた。今後は、地域状況に応じた内容で、より身近な小規模単位で勉強会を実施し、多様化する生きづらさに理解のある地域づくりをしていきたいと考えています。

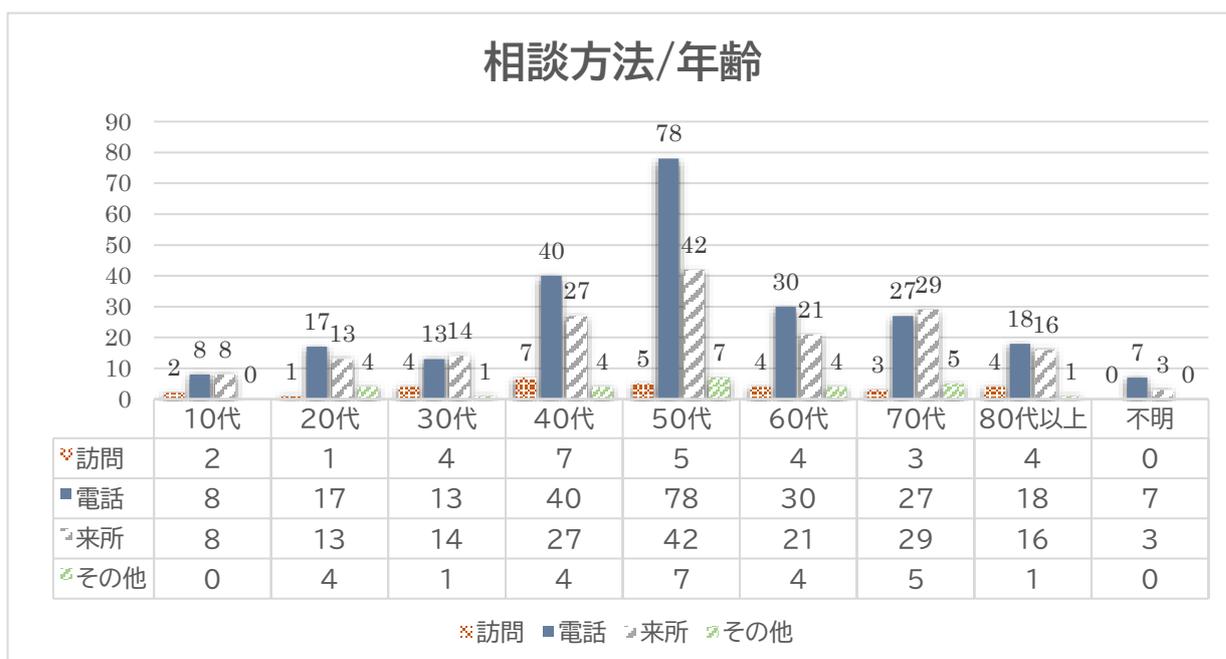


活動実績

① 相談支援における初回相談方法・相談者年齢

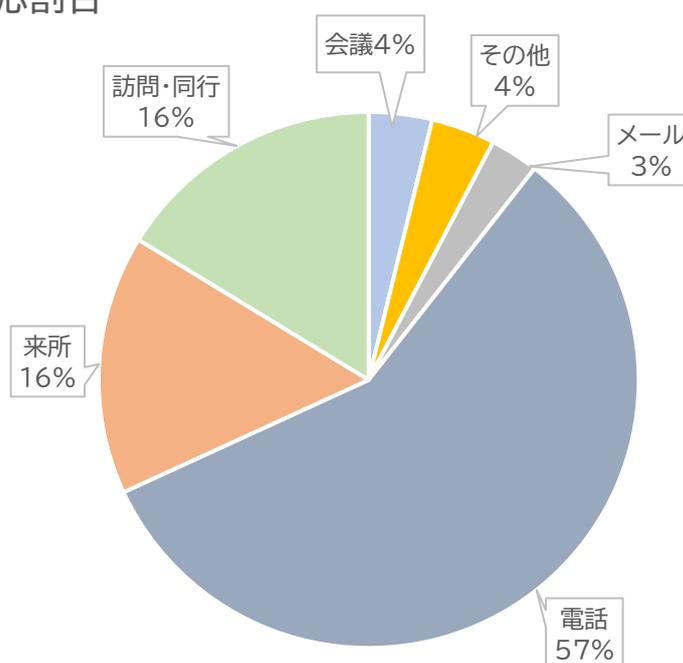
新規相談件数 令和3年度 個別：650件 / 地域：86件
 令和4年度 個別：691件 / 地域：56件
 令和5年度 個別：1048件 / 地域：78件
 （内継続相談件数467件）

※下記グラフには、継続件数の内訳を記載

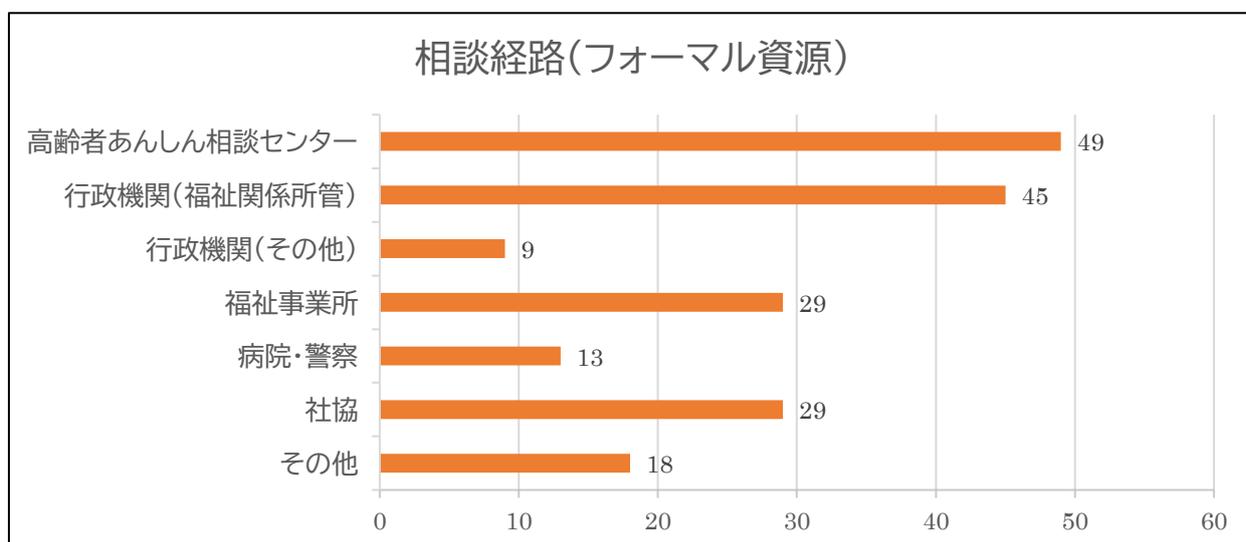
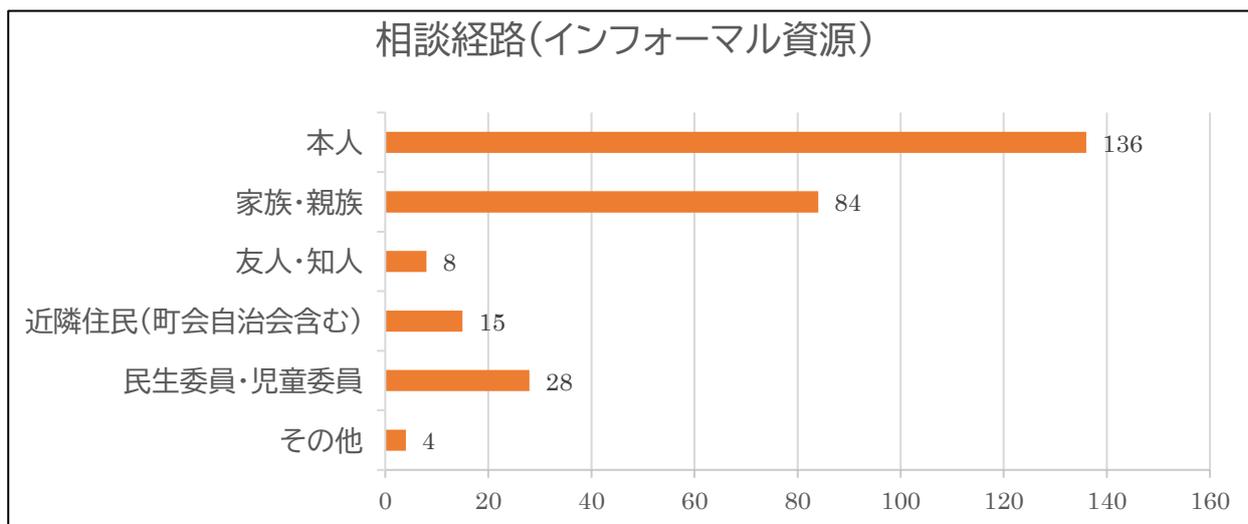


② 個別相談支援における CSW の対応記録

CSWの対応割合



③相談経路 ※新規継続相談 467 件についての内訳

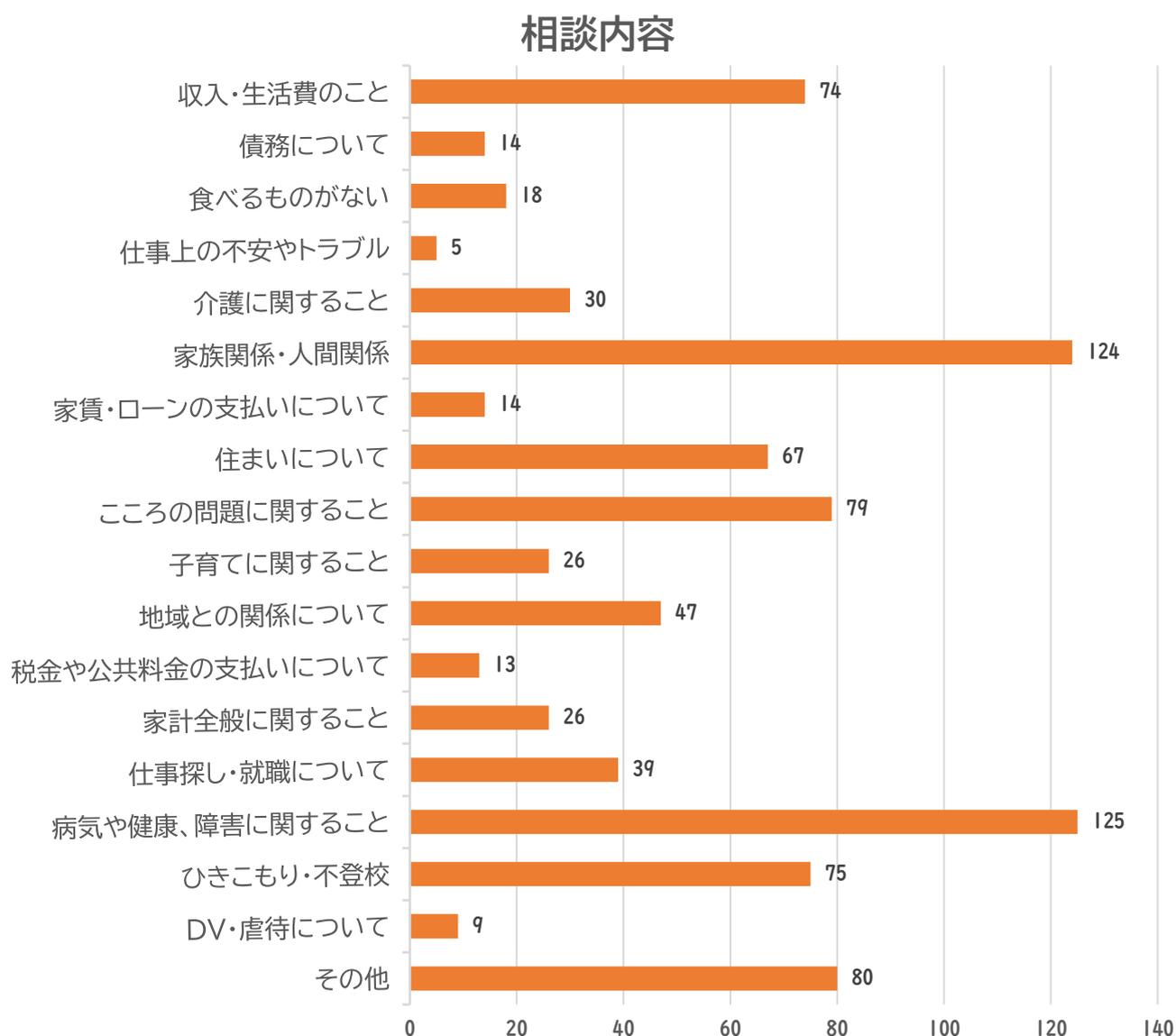


* その他の項目一例: 市議会議員、教育機関、葬儀会社、不動産関係など

令和4年度までは60代以上の相談が多くみられたが、令和5年度は40代～50代の相談者層が突出していることがわかる。

新規相談者件数のうち 467 件は、CSW が伴走支援をして、相談者のお困りごとの解決をサポートした件数となっている。残りの 581 件の相談対応は、相談内容をはちまるサポートで受けた後に「高齢者あんしん相談センター」や「子ども家庭支援センター」、「その他適切な関係機関」等へはちまるサポートからつないだ件数である。

④相談内容(重複あり)

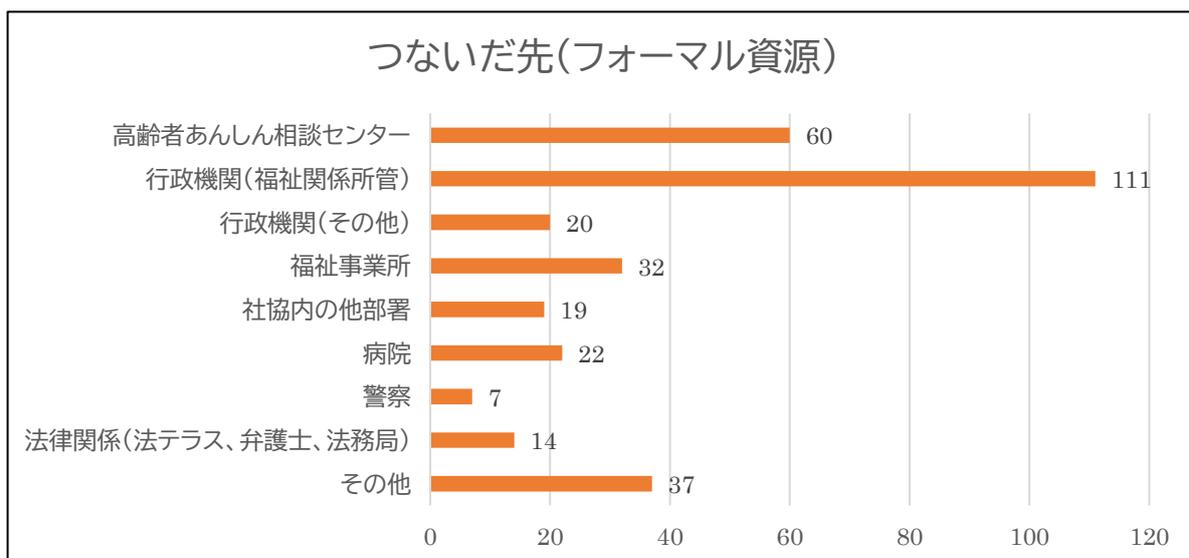


*その他の項目一例:近隣トラブル、相続・死後事務、ゴミ問題、成年後見制度、免許返納、書類手続き、居場所について など

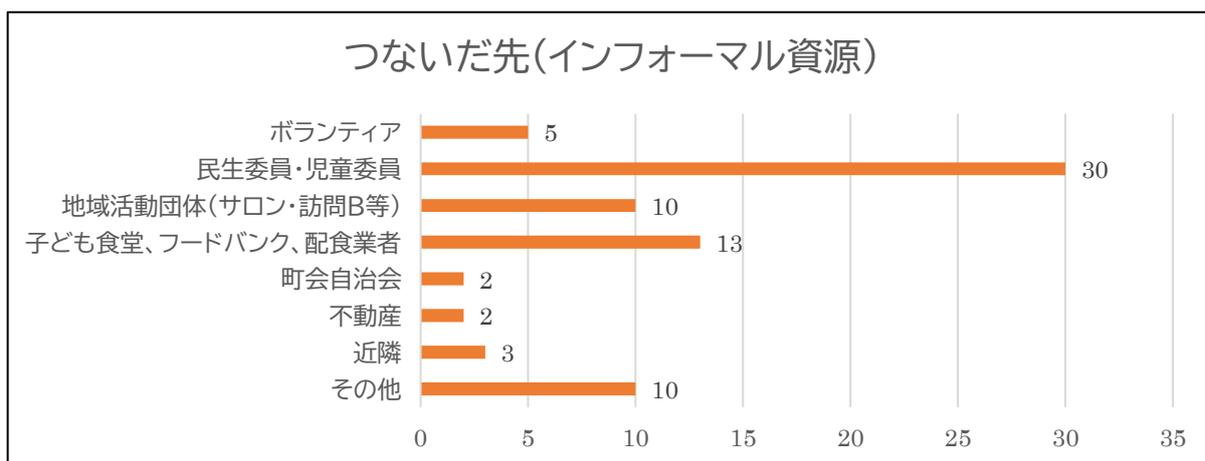
はちまるサポートへ寄せられる相談は、各種関係機関へ「つなぐ」ことで解決する相談だけでなく、伴走的な支援が必要な相談内容が多い。467件の相談内容の内訳が上記グラフとなる為、平均して相談件数1件に対して2つ以上の相談内容があることがわかる。

伴走支援をしていく中で、本人だけでは気づかない生活課題が見つかることもあり、CSWは、相談者との関係形成を築いて行く中で相談者が抱える生活課題の解きほぐしをしていくこともある。

⑤つないだ先・連携先



*その他の項目一例:市議会議員、年金事務所、大学、保護司 など



*その他の項目一例:ひきこもり家族会、ゴミ回収業者、無料塾、国際協会 など

相談内容によっては様々な関係機関との連携を図ることで、相談者の課題解決を図っている。

行政の福祉関係所管との連携が多いが、内容によっては企業や住民、福祉施設など様々な関係者と相談対応にあたることも多くなってきている。

令和5年度

はちまるサポート活動報告書

令和6年(2024年)7月

発行 社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会

編集 八王子市社会福祉協議会 支えあい推進課

八王子市横山町11-2 金子ビル4階

電話 042-649-8477 FAX 042-649-8478